

地球は電気のかたまりだ

杉本壮平

「電気はいつからこんなに使えるようになったのかな。電気の未来はどうなっているのだろうか」と教室の電気を上げながらぼくは考えた。ぼくは周りを見渡した。目の前には電気で動いているものがたくさんある。電気が動いている機械のおかげで製品ができる。

その製品のおかげで人間の生活はとても豊かになっている。では未来ではどんなふうに電気は活躍しているのだろうか。

まず、現在の電気の使われ方をみておよう。周りは電気製品だらけ。家では、家具やテレビ、冷暖房器具、冷蔵庫、掃除機など電気が大量に使われている。外では、ごみ収集所をはじめ、たくさん機械が利用されている。もう一度家の中を見ると、ぼくの目に飛びこんできたのが電球だった。電球の過去はなんだろう。ぼくは調べることにした。

明治11年。今からおよそ130年前のころ

月25日、東京虎ノ門の工部大学のホーリ
に電氣を使って発生させた火花を利用したア
ーク灯が設置された。このアーク灯があれば
今までの大変な生活もよくなる。天じよつに
つるされたアーク灯に電氣が通じ、まばゆい
光でホーリが照らされたとき、多くの人の目
には希望の光に見えたのではないだろうか。
こうして全国に電力会社が誕生した。海外で
は同じ頃エンジンが白熱電球の40時間点灯
に成功して、のちに日本でも白熱電球が使わ
れるようになった。たしこのことがわかった。

電球にはこんな歴史があったのだ。今、電
氣があるおかげでぼくたちは夜でもいろんな
活動ができる。ぼくたちが当たり前と思っ
ている電氣のある暮らしは、過去に生きた大勢
の先人たちの努力と悪劣の積み重ねの上に成
り立っている。だから、決して当たり前と思
わずに、電氣を大切に使って、電氣のある暮
らしに感謝したいと思う。ぼくたちの大切な
未来にも電氣の恩恵があることを願って。